

(令和6年度) 自己評価書		園番号 626	園名 奈良市立二名幼稚園		626奈良市立二名幼稚園			
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅰ 教育・保育活動に関するもの	(１) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	・幼児の実態に即した指導計画の立案及び推進をする。 ・幼稚園教育要領、奈良市立子ども園カリキュラムに基づいた教育課程を適正に実施する。今年度は、5歳児単学年であることと閉園を踏まえて編成の見直しを行う。 ・学校評議員や保護者に園評価アンケートを実施し、評価を検証して公表する。	・園の教育方針や教育ビジョンを園職員で共通理解し、教育目標の達成に向けて適宜評価反省をしながら次回につなげていった。 ・5歳児単学年の保育であることから、地域の人や異年齢との関りの工夫を行い成果が得られた。 ・園児の育ちやアンケートの結果や園の一年間の取り組みを評議員や保護者に配布し、幼児教育の啓発を行った。	A	A	・園の教育目標について話し合い、その中で、教材研究をしたり環境や援助の見直しなどをしたか。 ・保護者アンケート結果ではほぼ全員の肯定的な意見を得られた。 ・5歳児のみの保育・教育であったが、幼児の主体性を促し、学びにつなげることができた。	・評価の指標となる具体的な目標について職員間で研修していく。 ・保育の質の向上につながるように具体的に反省評価し具体策を検討した。
		② 教育・保育計画の作成			A			
		③ 教育課程/全体的な計画の編成			A			
		④ 教育・保育活動の評価			A			
	(２) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	・幼稚園教育要領、奈良市立子ども園カリキュラムの内容に沿い、発達段階に応じた保育内容の検討や指導計画の立案をする。 ・援助や環境構成について着目し話し合い、「ひと・もの・こと」との出会いを大切にした保育を実施する。 ・主体的に遊びが進められる環境構成や援助の在り方を職員間で探り、共通理解を図る。	・研究主題を設定し、環境や援助、保育内容の見直しをすることで、子ども自ら主体的・意欲的に取り組む姿や継続的に遊ぶ姿があった。 ・ゲストティーチャー、地域の方の支援、園外保育の経験を得て継続的に地域の良さや自分とのつながりを感じる感動体験の充実に努めた。 ・園内研修や事例研修をもとに、具体的な話をする中で、課題を見つけ改善していった。	A	A	・子ども理解や発達に応じた指導方法、子どもが主体的に、心を揺り動かす体験の積み重ねに向けての保育内容の工夫などについて話し合い、職員で取り組んだか。 ・保育内容を工夫し、子どもの遊ぶ姿や成長が保護者にも伝わり、良い評価を得ることができた。	・保育の質の向上を目指して、子どもの育ちにつながる教育活動になるように、反省や評価・課題を職員間で振り返り共通理解を図った。
		② 保育内容の精選			B			
		③ 指導方法の工夫改善			A			
		④ 評価			A			
	(３) 園行事	① 指導計画の立案	・行事の前には話し合いを十分に行之い、計画・準備・反省・課題を出し合って共通理解する。 ・豊かな感性や情緒を育み、感動体験ができる価値ある行事の実施をする。 ・保護者、地域と連携した行事の実施を行う。	・行事前には必ず細かい打合せをし、終了後には評価・反省を行った。また子ども達が主体となって進められるように子どもと共に考え実施した。 ・5歳児単学年ということで、自由参加として保護者参加の機会を多くもった。保護者からは、子ども達と一緒にたくさんの経験をする事ができ楽しかったと喜んでいただけた。	A	A	・職員間で細かい打合せをすることで、それぞれの行事が子ども達にとって貴重な経験となったか。 ・保護者アンケートや懇談会を通して、保護者から園ならではの豊かな体験ができていると高評価を得ている。	・保護者や地域の協力を得ながら、内容や方法を工夫し様々な体験活動を実施して魅力ある園行事を行うことが大切である。
		② 行事内容の精選			A			
	(４) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・自分を大切にすると共に、相手への思いやりの気持ちが育つような保育を立案し取組を進める。 ・自尊心や自己肯定感が育まれる活動、発達段階に応じた教材の活用、友達や保育者と遊ぶことが楽しいと感じられる保育内容の充実を図る。 ・様々な人と触れ合う機会を持ち、豊かな心が育つよう保育内容の充実を図る。	・友達と遊ぶ楽しさや、自分とは違う考え方があり、それを受けいれ、互いに認め合い、困難なことや悲しいことや嬉しいこともみんなで話し合うことで、支え合う仲間つくりが出来てきている。 ・保育者自身が柔軟な人権感覚をもち個々の子どもを尊重し命の大切さや一人一人が大切な存在であることの指導を行った。	A	A	・日々の生活の中でおこる問題について具体的なや課題を出し合い、連携しながら取り組めたか。 ・職員の人権意識を高くもち、日々保育を振り返り、子どもの実態に応じた保育・教育を行った。	・遊びや生活の中で、一人一人の良さをさらに認め合える取組を進める。 ・職員自ら、人権感覚を磨き、お互いに向上していく職員集団を目指す。また、子どもに寄り添いながら子ども達の自己肯定感を育む。
		② 保育内容の精選			A			
		③ 指導方法の工夫改善			A			
	(５) 生徒指導	① 組織的な指導	・毎日の保育の中で子ども一人一人について情報共有し、支援の方法について話し合い、職員共通理解のもとで適切な指導を行う。 ・家庭や専門機関との連携を図り情報収集に努め、より良い支援を探り実践する。	・担任が一人の為、一人で抱え込むことがないよう日々、職員間で情報共有し、職員各自が保護者への傾聴に努め、一貫した指導を行うことができた。	A	B	・家庭や専門機関と連携し、職員で共通理解し力を合わせて臨機応変に対応し、一人一人を大切にした丁寧な取り組みができたか。 ・職員間の協力体制が構築され、適切な支援ができている。	・専門機関と連携を取りながら、情報を得て、特に配慮を要する子どもや保護者への適切な対応を進め、全園児のより良い成長につなげる。
		② 教育相談・幼児理解			A			
		③ 家庭との連携			B			
		④ 関係諸機関との連携			B			
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である ・日頃より実態把握・早期発見に努めている ・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・日々保育の振り返りを行い、職員間で実態や課題、対策を共有することが出来た。また、一時預かり保育者との連携・共有を大切にした。 ・地域や各種の会議で園での様子についての情報交換をする。地域の方々の見守りへの感謝の気持ちを伝えた。 ・保護者に園での様子を降園時やホームページできめ細やかに伝えたり、職員が家庭での様子を知るなどして信頼関係に努めた。	B		・実態把握や情報確認を迅速に行えたか。 ・全職員が、全園児一人一人の特性を把握し、共通理解のもとで迅速に対応できた。 ・日頃より子ども、保護者の小さな変化を見逃さずに、互いに共有しより良い方向につなげた。	・早期発見に向けて、健康観察に気を配ったり、小さなサインも見逃さずに丁寧に関わったりして全職員で取り組んでいく。 ・園だよりやクラスだより、ホームページ等で園教育について啓発し保護者や地域に発信していく。 ・職員の、いじめや虐待を見抜く力量を高めていく。
					B			
					B			
					A			
					B			
					A			
	(６) 特別支援教育	① 推進体制	・全職員が支援を要する子どもについて共通理解をする。 ・子ども一人一人に実態に即した教育内容や指導方法、援助の仕方を工夫する。 ・専門機関、特別支援コーディネーターと連絡を図り、専門家の意見を参考にしながら、クラスでの効果的な支援の方法を探る。 ・保護者の思いに寄り添い、連携を図りながら、ともに子どもの姿を見守り支援していく。	・コーディネーターや関係機関等の意見を参考に、支援を要する子どもの特徴や支援方法を職員間で共通理解することが出来た。 ・子どもが見通しをもって活動できるように視覚を通した環境を工夫したり、適切な支援のあり方について一人一人の子どもに合わせ改善をしたりしていった。 ・家庭と関係機関をつなぎ、適切な支援の方法について、園と家庭が共有しながら取り組むことが出来た。	B	A	・職員間で連携して課題を共有し、保護者の思いに寄り添いながら必要な支援を行い取り組めたか。 ・職員間での話し合いを繰り返し、一人一人の実態把握と幼児理解を全職員で共有し、支援方法を共有した。	・個々のおかれている現状と発達、課題などを把握し、関係機関等と連携を取りながら対応していく。 ・保育内容など保育者の指導の改善に向けて研修をさらに積み重ねる。 ・今後も工夫を重ね、保護者との信頼関係の構築に努める。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容			A			
		③ 指導方法の工夫改善			A			
		④ 家庭との連携			A			
		⑤ 関係機関との連携			A			

(令和6年度) 自己評価書		園番号	園名		626奈良市立二名幼稚園			
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(１) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・教育目標「心豊かで心身ともにたくましく生きる幼児の育成」達成に向けての方針や園経営についての考えを明確にする。 ・園務分掌では全職員が業務内容を理解し助け合える環境を整える。 ・職員の適正配置と、それぞれがもつ個性を柔軟に受け止め、一人一人が生き生きとやりがいをもって取り組める環境づくりをする。 ・情報交換や課題の場として位置づけ、見通しを持った指導内容を実現するための綿密かつ効率的な職員会議を行う。	・園の教育ビジョンを作成し、ビジョンに基き、保育の方向性を明らかにすることが出来た。 ・園教育目標・研究主題について共通理解を図り、目標に向かって保育を推進することができた。 ・一人一人の心身の健康状態や勤務状況・適性を把握し、共働的な職場づくりに努めた。 ・保護者アンケートの実施では高い評価をし、園教育の成果と課題を明らかにできた。	B	A	・全職員が協力・協働して話し合い、意欲的に取り組める環境であったか。 ・保護者に園の取り組みを理解してもらい、安心、安全な園運営を目指し取り組んでいることを啓発できたか。 ・全職員で園の教育ビジョンや教育目標、園の主題等を共通理解し、同じ思いで取り組んでいくことが出来た。 ・職員一人一人が自分の役割をしっかりと把握し行っていた。 ・アンケートの結果の評価を職員で確認し、改善点を見出す。	・全職員が組織の一員として担っているということを意識し行動していけるように周知徹底する。 ・園の課題や問題については、全職員で協議・検討し、改善に努めるようにする。
		② 園経営目標・方針			A			
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A			
		④ 園務分掌等の連携			A			
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B			
		⑥ 会議の結果			A			
		⑦ 職場の人間関係			A			
		⑧ 園評価の実施			A			
	(２) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	・公開保育や研修会、事例研修会などに積極的に参加し、学びを共有し職員の資質向上に努める。 ・園内研修会では、他園の職員と共に研修を深めて保育者の資質向上を目指す。 ・研究主題や事例研修を通して、具体的な子どもの姿を出し合い、主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図る。 ・オンライン研修や対面研修など積極的に参加できる体制を整える。	・研究主題を目指して、保育内容の研究を積み重ね、学びを伝え合い、高め合うようにしてきた。 ・園内研修会や実践事例を書くことで具体的な子どもの姿を出し合い、そこから主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図るようにした。 ・オンライン研修や対面研修に参加し、研修報告や議論、資料の回覧を行い、資質向上に努めた。	A	A	・研修会での学びが職員間で共有することができたか。 ・オンライン研修や対面研修に数多く参加できる体制をとり、研修で学んだことを園内で報告し、共有する機会をつくったことで職員の知識や実践力を高めることにつながった。 ・具体的に事例をあげながら話し合っていくことで、より明確に取り組んでいくことができた。	・職員が少ないが、園外の研修会に参加する体制をとり保育者の力量や指導力を高めるために、計画的・継続的に学び合える研修体制を整える。 ・職員で研修して学んだことを共通理解していき、研究主題に向かって同じ気持ちで学び合えるように、引き続き研究していく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			B			
		③ 園外の研修への積極的参加			A			
		④ 園外研修内容の共有			A			
		⑤ 研修成果の普及			B			
	(３) 安全管理	① 安全計画の立案	・危機管理、安全管理マニュアル、防災計画を見直し作成し、共通理解しておく。 ・毎月の避難訓練を適切に実施し、防災に対する意識を高める。 ・交通安全指導の徹底、地域にも周知する。	・月1回の避難訓練で子ども達には命を守る大切さを、年2回の通報訓練では職員がとっさの時の通報の対応を身に付ける機会を持つことが出来た。 ・交通安全教室で校区にはない踏み切りの渡り方を教えてもらう良い機会となった。警察署より「いかのおすし1人前」の話を保護者にも伝え、家庭でも安全指導に取り組めるようにした。	A	A	・危機管理マニュアルに沿って非常時や緊急時の対応ができたか。 ・通報マニュアルを作成し、緊急時に迅速に通報できるようにした。 ・園の取り組みを保護者や地域に発信し、家庭や地域との連携を強化した。 ・園外保育で、子ども安全の家の旗について子ども達に知らせた。	・危機管理意識を今以上に職員に周知し、どんな場面でも的確に且つ迅速に対応できるように共通理解を図っていく。 ・園の取り組みを保護者や地域に発信し安全への意識を高め、家庭・地域との連携を強化する。
		② 防災計画の立案			A			
		③ 危機管理体制の整備			A			
		④ 安全指導の工夫改善			A			
		⑤ 家庭との連携			A			
		⑥ 関係機関との連携			B			
	(４) 保健管理	① 保健計画の立案	・感染症対策を念頭に健康で安全な生活に必要な習慣（うがい・手洗い・マスク着用・換気等）や態度の育成のための指導計画を実施する。 ・日々の健康観察と健康診断、身体測定により子ども達の発達の様子を観察する。 ・食事時等の衛生管理を徹底する。 ・園医や看護師、関係機関と連携し、子ども達の健康管理を行う。	・感染症対策を徹底し、情報を共通理解して感染拡大防止に細心の注意を図った。 ・保健計画に基く保健指導や健康管理に努めた。 ・室内外で体を動かす遊びを多く取り入れ、子ども達や保育者も体力づくりへの意識が高まった。 ・アレルギー児対策として、教材や園で提供するおやつ等の選別を徹底したため、アレルギー発症や誤食をすることがなかった。	A	B	・日常生活の中で感染対策、健康管理対策やアレルギー児対応が徹底できたか。 ・保護者と共に連携し、感染症対策や健康管理に努めることができた。 ・アレルギー児へのおやつ提供の際には、事前に成分表を保護者にも確認してもらい、全員で同じものを食べることで事故を防ぐことができた。	・感染対策や予防対策については保育総務課や関係機関と連携して進める。 ・保健衛生への関心を高める啓発活動を充実させ保護者との連携を深める。 ・室内の湿度・温度の計測、換気等を今後も徹底して行う。 ・成分表等の確認を徹底する。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
		③ 健康観察、健康管理能力の育成			A			
		④ 関係機関との連携			B			
		⑤ 昼食の衛生管理			B			
	(５) 地域との連携	① 園情報の発信	・園の取組や子ども達の様子などを、園だよりやクラスだよりホームページ等で保護者や地域に情報発信する。 ・地域や小学校との交流は、感染症拡大防止対策を行い事前に打合せ等をこまめに行いながら取り組む。 ・コミュニティースクール会議や地域の連合会の定例会、地域主催の行事などに参加する。 ・学校評議員会を開催し、園の保育教育に理解と協力を得る。	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で園の取り組みや子ども達の様子を発信した。 ・「地域で決める学校予算事業」の効果的な活用により、豊かな体験活動ができた。 ・学校評議員の方々には、多くの園内行事に参加していただき、園の取組みの様子を見て頂き、高い評価を得ることができた。 ・毎月の地域の定例会への参加や、閉園の実行委員会等で園の取り組みをお知らせした。	A	A	・園だよりやクラスだより、ホームページ、地域の会合等で園の取り組みや子ども達の様子を発信することができたか。 ・地域、小学校、保育園に来ていただく機会を多く設けた。 ・閉園事業を一年を通して行い、閉園式に向けて地域の力を活用し園への理解を得ることができた。	・保護者、地域、各学校とも連携の仕方を工夫し子どもの学びがつながるようにした。 ・閉園に向けての取り組みを地域の方の意見も取り入れながら計画的に行えた。
		② 園(保育)公開			A			
		③ 小学校との接続・連携			A			
		④ こ幼保との連携			B			
		⑤ P T A・保護者会の活性化			B			
		⑥ 地域教育協議会との連携			A			
		⑦ 学校関係者評価の実施			A			
	(６) 施設・設備	① 保育環境の整備	・保育環境の整備が充実し、効果的に活用をしている。 ・施設の美化清掃に努め、危険箇所・修理箇所の整備、日常的な点検・管理を行う。	・予算を有効・計画的に執行し、安心して遊べる保育環境、花壇、畑等の整備の充実に努めた。 ・園舎内外の点検を常に行い、園で修理したり市に修繕依頼をしたりして安全な環境づくりを迅速に行った。	A	A	・子どもの安全面に留意し点検や改善を行い、保育環境を整えたか。 ・常に点検を行うことで迅速な対応ができ、幼児の安全につながった。	・保育環境は日々見直し、工夫をする。 ・安全安心な園生活が送れるように、点検を怠らず、危険箇所等、職員間で周知徹底し、改善策を講じる。
		② 施設設備の有効利用			B			
		③ 施設設備の管理			A			
	(７) 情報管理	① 公文書の収受・保管	・閉園に向けて、公文書の適切な処理と保管を行う。 ・個人情報にかかわるデータ、文書の管理を徹底する。 ・物理的なセキュリティ対策として、パソコン・カメラなどの保管、また、人的な情報セキュリティ対策として職員間で情報漏洩防止対策の共通理解をする。	・カメラやデータ管理の見直しや整理を行った。 ・情報セキュリティについては媒体使用簿、デジタル管理簿などの記入を徹底した。 ・個人情報の取り扱いについては管理保護を行い、全職員への周知を徹底した。	A	A	・個人情報や公文書の保管、取り扱いが徹底されているか。 ・施錠できる収納での保管を徹底する。 ・情報管理に関する情報収集をし、研修に参加することで、全職員の意識を高めることができた。	・閉園の為、公文書・個人情報の管理、取り扱いについて細心の注意を払い事故防止に努めるとともに、閉園に向けて情報の整理を計画的に行う。 ・保護者会活動における情報管理についても同様に行う。
		② 公文書の作成			A			
		③ 個人情報の管理・保護			A			
		④ 情報の収集			B			
		⑤ 電子媒体の管理			A			